第 7 章

学習プログラムの考え方

「連携・協働を推進しつつ、地域づくりに参画する人材が育つための学習プログラム」から

中野　洋恵・小林　千枝子

1　はじめに

国立女性教育会館では昭和52年の開館以来、男女平等、男女共同参画の推進を目指し、その中核として女性のエンパワーメントを目標に、事業に取り組んでいる。研修事業は主要事業の一つであり、男女共同参画を進める行政担当者、女性関連施設の職員、女性団体・グループのリーダー等を対象に数多くの研修事業を実施してきた。

しかし、事業の企画・実施についてみると、事業を担当する専門職員が前年度のプログラムの実施後の評価をもとに改善を重ねるといういわば経験の積み重ねに基づく方法によって実施されていた。したがって、プログラムとして構造化されていたとはいえないところもあった。そこで、平成17年度から外部の成人学習研究の専門家も含めた「学習プログラム研究会」を立ち上げ、これまでの主催研修の検討、女性関連施設等で実施している事例の検討をもとに、プログラムの構成要素を明確化するとともに、この構成要素を、研修目標、研修項目、研修方法として具体化するプログラム・デザインを開発するなどプログラムの基礎となる研究を進めてきた。この基礎研究をもとに、平成20年度は「多様な機関との連携・協働を推進しつつ女性の社会活動キャリアを促進し、地域づくりに参画する人材が育ち、力をつけること」を

目的に静岡県と千葉県で実験プログラムを実施することによって学習プログラム・デザインの具体的構築を試みた。

本稿ではこの実験プログラムにおける学習プログラム構築の基盤部分について報告する。

2　プログラムの特徴

このプログラムの特徴は以下のとおりである。

・参加者はプログラムの成果を地域に持ち帰って実践につなげる。
・実践・活動に結びつくために不可欠な、関係性、連携・協働を高める学習方法を用いる。
・男女共同参画を推進するためのモチベーションを高める（マインド・アップ）。
・単に問題を把握するだけではなく、具体的に地域課題を把握し、今後の見通しやプライオリティーをもとに課題を分析する。
・連携を強化し実践に結びつけるためには参加者は、地域を共通にし、環境、福祉などの課題を共通にしていることが重要である。そこで具体的に地域で実践・活動していく際に、核をつくる関係が必要だと考え、参加者の組み合わせを、女性関連施設職員、男女共同参画行政担当職員、女性団体・グループのリーダーの三者とする。
・学習の中で関係をつくるだけでなく、地域において具体化できる事業計画案作成を目標においた。地域の実態把握・問題把握が必要であり、実践・活動を前提にした課題把握を行ったうえで計画案を作成するというプロセスをとる。
・この学習の方法をワークショップ型とし、グループによる作業を重視する。また、講義は、作業のために必要な知識の提示と位置づける。
・ワークショップを充実させるために、グループワーク全体を運営し、作業を進めることを支援する「ファシリテーター」と各グループでの作業・学

習が充実することを支援する「学習支援者」を配置する。

・ワークショップを効果的に進めるために、個人作業用、グループ作業用のワークシートを作成するとともに、付箋を活用した「付箋ワーク」の手法を開発する（詳細は第８章参照）。

・個人の活動を社会に結びつける視点として「社会活動キャリア」概念を導入する。

3　プログラムの構成要素

前述したプログラム開発に関する研究から、実践・活動に結びつくためのプログラムの構成要素として「男女共同参画推進意識の涵養」「方向・ビジョンをもつ」「実態の把握」「問題の把握」「課題の把握」「実践・活動を進めていく力（実践力）」「課題を解決する力（実践力）」等が明らかになった。これらは並列的なものではなく、状況に応じて相互に関連し合っていることも指摘されている。今回のプログラム作成に当たっては、これらを大きく３つにまとめ、「男女共同参画推進意識の涵養、方向性・ビジョン」「実態・問題・課題把握、分析」「実践力＝課題解決」を学習プログラムを構成する三要素とした（詳細は第１章参照）。

4　プログラム・デザイン

プログラム構成の三要素を、研修目標、研修項目、研修方法として具体化したものがプログラム・デザインである（第１図）。

「多様な機関との連携・協働を推進しつつ女性の社会活動キャリアを促進し、地域づくりに参画する人材が育ち、力をつける」という目的を具体的に到達すべき７つの目標として細分化した。以下、目標ごとに、そのねらい、研修項目、研修方法について述べる。

第１図　プログラム・デザイン

【本プログラムの特徴】
①個人のキャリアと地域づくりを関連させて捉える（「社会活動キャリア」）。
②会館の調査研究成果を、プログラムデザインの作成、プログラム内容など様々な部分に活用する。
③実験プログラムの実施過程そのものが、参加者の連携・協働の実践である（事業計画案の作成）。
④実験プログラムで行ったことを参加者が地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動に生かすという、活動しながら学ぶ「アクティビティ・ラーニング」の手法を取り入れる。

対　象　女性関連施設職員、行政男女共同参画担当職員、地域の女性リーダー

研修目的　多様な機関との連携・協働を推進しつつ、女性の社会活動キャリアの形成を促進し、地域づくりに参画する人材が育ち、力をつける

研修目標（ねらい）

- １男女共同参画についての視点をもつ（男女共同参画についての考え方を確認し、参加者同士で共通認識を持つ）
- ２地域における男女共同参画の状況と課題を把握する（男女共同参画の国際的、国内的、地域的な実態をデータに基づいて把握し、課題を明らかにする）
- ３女性関連施設、女性団体の現状を把握し、課題を認識する（男女共同参画推進拠点としての施設の役割を再確認する。連携・協働の推進、女性の社会活動キャリア支援という課題に引き付けて考える）
- ４女性のキャリア形成支援における現状と課題を把握する（キャリアの概念、女性のキャリア形成について理解した上で、社会活動キャリアを支援することの意味と意義を理解する）
- ５女性の社会活動キャリア形成事例の分析を通じて、支援方策と課題を明確化する
- ６課題解決に向けた課題を立てる（1~5 までを踏まえて、参加者で討議する）
- ７連携・協働を活かし、地域づくりに参画する女性人材が育つための事業計画案を作成する（女性関連施設職員、行政担当者、女性リーダーでグループとなり、事業計画案の作成を通じて協働を実践する。共通視点：①役割の変更・創造、②機関等での意思決定・方針決定への参画、③国・自治体等の政策決定への参画）

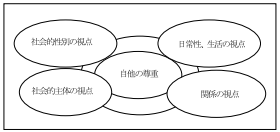
研修項目

本プログラムの意味・意義を説明する

- ・男女共同参画推進の視点、女性関連施設・女性団体の役割、女性の社会活動キャリアとは
  男女共同参画推進の視点
  ＊自他の尊重の視点
  ＊関係の視点
  ＊社会的性別の視点
  ＊社会的主体の視点
  ＊日常性、生活の視点
- ・情報を活用した実態把握：データで読む男女共同参画（男女共同参画を推進するための情報について。国立女性教育会館女性情報ポータル、データベースの活用。男女共同参画統計の基礎を学ぶ。統計の読み方を学ぶ。）
- ・各地域での女性の「人材育成」について、現状からみえる課題を明確にする（参加者同士で課題を持ち寄って討議する）
- ・地域づくりに参画する女性キャリア形成支援とは（キャリアの概念、女性の個人的キャリア、地域づくりにおける女性の社会活動キャリアについて学ぶ。ロールモデル集を使い、成功要因、困難の乗り越え方、連携・協働の活かし方について分析）
- ・地域づくりに参画する女性のロールモデルの分析（事例分析の視点：どのような支援が有効だったか、どのような力量が必要だったか・どのような力量を得たか
  ・ロールモデル分析の手法
  （分析シートを使い、社会活動キャリアをもち、地域づくりに参画するロールモデル事例を、グループワークによって分析する）
- ・地域づくりに参画する女性人材が育つための事業計画案に結びつける
- ・地域づくりに参画する女性人材が育つための事業計画案作成（作成の視点：ねらい、対象、連携・協働、内容、予測される地域社会および個人への影響）
  ・作成した案の発表
  ・作成した案の検討
  （作成したものの振り返りが重要）

研修方法　講義と討議／ワークショップ　会館調査研究成果・女性情報の活用／講義と討議　会館調査研究成果・情報の活用／講義と討議　会館研修への参加　会館調査研究成果・情報の活用／事例分析　会館調査研究成果・情報の活用／討　議／ワークショップ

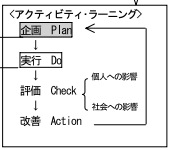
身につけたい力量　男女共同参画推進意識／実態把握力・課題分析力／実態把握力・課題分析力／実態把握力・課題分析力／課題分析力・実践力／実践力
①Attitude（チャレンジする態度・かまえ、自一他の尊重）
②Competence（組織力、協働力、関係力、企画力、情報力）
③Skill



キーコンピテンシー（基礎力）：知識や情報を活用する能力、関係力、連携力、自立・自律力、省察力、評価力

発表の場　会館地域交流会議（来年２月）

実験プログラム参加者が地域に持ち帰って実践（21 年度）



目標１　男女共同参画意識の涵養　－男女共同参画についての視点をもつ

参加者はすでに男女共同参画に関する知識や意識をもっているが、参加者同士で男女共同参画についての考え方の共通認識をもつことが必要であるということから、この目標をおいた。構成要素の中の「男女共同参画推進意識の涵養」に対応している。研修方法は、講義と質疑応答を組み合わせた。男女共同参画を推進する視点として重要と考えるのは、「自他の尊重」「社会的性別の視点」「日常性、生活の視点」「社会的主体の視点」「関係の視点」である（詳細は第１章参照）。

目標２　実態把握、課題分析　－地域における男女共同参画の状況と課題を把握する

地域における男女共同参画の状況を、データに基づいて把握し、課題を把握することをねらいとする。構成要素の中の「実態把握、課題分析」に対応している。

実態を把握するためには情報が必要であることから、まず会館が国際的な女性政策（男女共同参画政策）の動向の中で、収集・蓄積してきた情報について講義を行い、さらにその中でも男女共同参画の実態を把握するために有効な統計を、男女共同参画の視点から分析する「男女共同参画統計」に焦点を当てた講義を行った。その後に地域の統計データを読むことにより、地域の実態と男女共同参画の課題を把握するグループワークを行った。

目標３　実態把握、課題分析　－女性関連施設、男女共同参画行政、女性団体の現状を把握し、課題を認識する

人材育成に焦点を当て、女性関連施設、男女共同参画行政、および女性団体の現状を把握するとともに、課題を明確化することがねらいである。構成要素の中の「実態把握、課題分析」に対応している。各地域で、人材育成に関してどのような問題があるのかを参加者同士で洗い出し、問題を分類することによって解決すべき問題を「課題」として把握するために、付箋と模造

紙を使ったグループワークという方法で行った。

目標４　実態把握　－女性のキャリア形成支援における現状を把握する

女性のキャリア形成についての概念、社会活動キャリアの考え方について理解することがねらいで、構成要素の中の「実態把握」に対応する。講義と討議という方法で行ったが、次の目標５へつなぐ橋渡しとしての意味をもつ。

目標５　課題分析　－女性の社会活動キャリア形成事例の分析を通じて、支援方策と課題を明確化する

女性の社会活動キャリアという考え方への理解を深めるとともに、支援方策について考えることをねらいとする。その際に、会館が収集した事例を、これも会館で作成した事例分析シートを使い、グループワークを行った。構成要素の中の「課題分析」に対応している。

目標６　課題解決に向けた実践　－課題解決に向けた課題を立てる

目標７　課題解決に向けた実践　－連携・協働を活かし、地域づくりに参画する女性人材が育つための事業計画案を作成する

目標の６と７は連動しており、構成要素の中の「課題解決に向けた実践」に対応している。施設職員、男女共同参画行政職員、地域の女性団体・グループリーダーの三者で、「連携・協働を活かし、地域づくりに参画する女性人材が育つための事業計画案」を作成し、それを地域に持ち帰って今後の実践につなげていくということを目標においた。そのために、まず学んだことを振り返り、それに基づいて解決したいと考える人材育成に関連する課題を明らかにすることを「課題を立てる」として、目標３で問題から課題として識別したものをさらに「解決のための」と限定して明確化したものである。その際、「緊急性」「必要性」「実現可能性」という観点から絞り込んだ。

目標７に挙げている事業計画案は、地域づくりに参画する際の要件として

第２図　プログラム・デザイン（改善版）

【本プログラムの特徴】
①「実践・活動に結びつく」学習（アクション・ラーニング）である
②プログラムの実施過程そのものが、参加者の連携・協働の実践につながり、プログラムの実施後に地域での実践の可能性を含む
③ワークショップ型学習方法で行う
④個人の活動を社会に結びつける視点の導入（「社会活動キャリア」）

対　象　女性関連施設職員、行政男女共同参画担当職員、地域の女性リーダー

目　的　多様な機関との連携・協働を推進しつつ、女性の社会活動キャリアの形成を促進し、地域づくりに参画する人材が育ち、力をつける

目　標

地域における男女共同参画の課題の明確化

人材育成における課題の明確化

解決に向けた課題立て～実践

本プログラムの意味・意義を理解する

男女共同参画推進意識の涵養、方向性・ビジョン	実態把握	問題・課題把握	課題把握	課題分析	課題解決に向けた実践	課題解決に向けた実践
１　男女共同参画についての視点、方向性・ビジョンをもつ	２　地域における男女共同参画の現状を把握する	３　地域における男女共同参画政策、女性関連施設、女性団体の現状と問題を整理し、課題化する	４　地域づくりに参画する人材の育成における課題を把握する	５　女性の社会活動キャリア事例の分析を通じて、支援方策と課題を明確にする	６　課題解決に向けた課題を立てる	７　連携・協働を活かし、地域づくりに参画する女性人材が育つための事業計画案を作成する

学習項目、方法

必要な知識
・男女共同参画推進の視点
　＊自他の尊重の視点
　＊関係の視点
　＊社会的性別の視点
　＊社会的主体の視点
　＊日常性、生活の視点
　＊プロセスの視点
・女性関連施設・男女共同参画行政・女性団体の役割
・女性の社会活動キャリアについて
・連携・協働について
ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾜｰｸ
・討議

必要な知識
・男女共同参画を推進するための情報について
・男女共同参画統計の基礎知識
ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾜｰｸ
・統計データから地域の男女共同参画の現状を読む

必要な知識
・問題と課題を区別することの重要性
・各地域における男女共同参画政策、女性関連施設、女性団体の現状
ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾜｰｸ
・問題整理・課題化のグループ・ワーク

必要な知識
・女性にとってのキャリアの概念
・社会活動キャリアの概念
・地域における人材育成の現状
ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾜｰｸ
・討議：地域における女性のキャリア形成、人材育成の課題について討議

必要な知識
・社会活動キャリア形成の事例
ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾜｰｸ
・事例分析（「分析シート」を使い、社会活動キャリアの形成過程を整理）
・「分析シート」に基づいて、どのような支援が有効だったか、どのような力量が必要だったか・どのような力量を得たかという視点から討議し分析

ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾜｰｸ
・グループ・ワークにあたっての情報提供
・４で把握し、５で分析した人材育成に関する課題を、「必要性、緊急性、実現可能性」の３点から絞り込む

必要な知識
・連携・協働についての考え方、事例
ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾜｰｸ
・地域づくりに参画する女性人材が育つための事業計画案作成
（作成の視点：ねらい、対象、連携・協働、内容、予測される地域社会および個人への影響）
・作成した案の発表、コメント
・作成した案の修正、発表、コメント

身につけたい力

男女共同参画推進意識

実態把握力

実態把握力・課題分析力

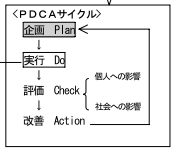
実態把握力・課題分析力

課題分析力

実践力

実践力

実践力
①Attitude（チャレンジする態度・かまえ、自一他の尊重）
②Competence（連携力、協働力、関係力、企画力、情報力）



プログラム参加者が地域に持ち帰って実践・活動に結びつける

「①役割（社会的性別）の変更・創造」「②機関等での意思決定・方針決定への参画」「③国・自治体等の政策決定への参画」をおいた。役割の変更・創造とは、女性がこれまで少ない分野に進出すること、男性が家事・育児に参画することなどを意味する。

各グループで作成する事業計画案には、テーマ、ねらい、対象、内容、連携・協働、予想される個人および地域社会への影響が盛り込まれている。

以上のように実験プログラムは７つの目標に沿って実施されたが、プログラム終了後全体を振り返り、プログラム・デザインを改善した。主な改善点は、以下の通りである（第２図）。

・研修目標間の関連性を明確化した（目標１、２、３は関連し、１つの流れとなって課題の明確化につながる等）。
・ワークショップの方法をより具体的に記載した。
・連携・協働に関する講義をミニ・レクチャーではなく、講義と討議として位置づけることによって講義をもとに話し合うことを明確化した。
・男女共同参画の視点をもって地域づくりに参画していくためには、次の世代につないでいくことが重要であることから「プロセスの視点」を加えた。
・「ロールモデル」という表現ではモデルとすべき望ましい事例と捉えられがちなので多様性を認める意味から表現を「事例」に改め、「事例分析」とした。

この改善されたプログラム・デザインも最終のものだとは考えていない。今後もプログラム・デザインを研修プログラムに活かし、そのフィードバックをもとにさらに効果的なプログラム・デザインを構築していきたい。

引用文献

国立女性教育会館　2009『連携・協働を推進しつつ、地域づくりに参画する人材が育つために』

（なかの・ひろえ　国立女性教育会館研究国際室長）
（こばやし・ちえこ　国立女性教育会館調整主幹）